

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	DD314/写真文化論 (Cultural Study of Photography)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Media & Photography/視覚文化の転回点としての写真 —洞窟壁画からインスタグラムまで—		
担当者名 (Instructor)	深川 雅文(FUKAGAWA MASAFUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CCS3410	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	社会学部生用 他学部生は抽選登録にて申し込むこと		

授業の目標(Course Objectives)

写真を人類の視覚文化の革命的な転回点とし、その進展を古代から現代までメディアの歴史的展開（洞窟壁画からインスタグラムまで）の中に位置付けることで、現代の映像文化の理解を深めるとともにメディアリテラシー能力を高め、生活・文化・芸術ならびに今日の社会と人間の存在の仕方を理解するための分析眼と思考力を身につけること。

Photography is one of the most significant turning points in the history of human visual cultures. By viewing the media of photography through their progress and developments of the important human media, from ancient time until now (e.g. Instagram), students can deepen their understanding about modern visual cultures and improve their media literacy. Students will acquire an analytical perspective to understand our life, arts, and social situations through our media cultures.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、今日、私たちの社会と生活に広く浸透している「写真」というメディアを視覚文化の革命的な転回点として捉え、様々な映像が浸透した私たちの生活文化の根源とその成り立ちを、人類史における視覚文化誕生のプロセス並びにそのダイナミックな歴史的展開を追うことで展望します（「メディア考古学」）。その事象を、過去（洞窟壁画）から現在（インスタグラム等）まで、視覚文化の歴史的展開をその過程を促した社会的・思想的背景ならびにテクノロジーの展開とともに通観していきます（「テクノ画像の宇宙へ」）。講義は、視覚芸術の展開の様相や関連する社会的・歴史的事象を具体的に豊富な映像資料で紹介しながら説明する形で進めます。私たちの自己形成と世界観に深く関わり、影響を与えている映像文化のあり方、とりわけその原点となった写真(テクノ画像)の本質を理解し、目まぐるしく変化する現代の社会と人間のあり方を読み解き考える力を身につけてもらいたいと思います。

Photography has permeated our society and lives. In this subject, students will study this media as a revolutionary turning point in visual culture. Students will study origins and development of our life cultures permeated with various images. At the same time, they will study vital birth places of visual cultures in human history and its dynamic historical development. Professor will explain these phenomena from ancient time (cave painting) to now (e.g. Instagram). Students will be introduced to visual culture with its artistic and social developments, as well as catalyzing technological development. Professor will conduct the lecture by introducing historical visual arts, related artistic movements, and social phenomena. To do these, students will be introduced to specific and rich visual materials. Formation of self and world view are deeply related to and influenced by visual cultures. Students will study visual culture's current situations, particularly essence of photo (techno image), and acquire thinking skill to interpret the world. The following lesson plan is tentative. Professor will distribute finalized plan in the first class.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション 本講義の射程/講師自己紹介
2. メディア考古学(1) 洞窟壁画の誕生:画像文化の原点
3. メディア考古学(2) 文字の誕生:テキスト文化の原点
4. メディア考古学(3) 遠近画法の発明
5. メディア考古学(4) 活版印刷術の発明
6. メディア考古学(5) リトグラフ印刷術の発明
7. メディア考古学(6) 写真の発明 part1
8. メディア考古学(6) 写真の発明 part2
9. メディア考古学(7) 映画の発明/ハーフトーン印刷術の発明
10. テクノ画像の宇宙へ 序説(1) 哲学的分析
11. テクノ画像の宇宙へ 序説(2) 歴史的検証
12. テクノ画像の宇宙へ 序説(3) 21世紀、テクノ画像の状況 part1
13. テクノ画像の宇宙へ 序説(3) 21世紀、テクノ画像の状況 part2
14. テクノ画像の宇宙へ 序説(4) 21世紀、テクノ画像の展望

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の課題は、(1) 配布されるテキスト「Media & Photography / 視覚文化の転回点としての写真」を読む (2) 提示される

関連 URL で資料と映像を見る (3)映画・ビデオを見る(指定は授業時に) (4) 展覧会を見る(指定は授業時に) (5)文献を調べる(指定は授業時に) (6)インターネットで検索する(指定は授業時に)、(7)最終レポート (8)リアクションペーパー

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(42%) / 最終レポート(Final Report)(30%) / 出席記録(リアクションペーパー Reaction Paper)(28%)

テキスト(Textbooks)

1. 深川雅文、2022、『Media & Photography/視覚文化の転回点としての写真』、著者
本講義のテキストは、各回、PDF で教材として配布します。
オンデマンド授業になった場合に配布する講義映像は、この PDF 教材を元にして制作したものです。

参考文献 (Readings)

1. 深川雅文、2007、『光のプロジェクト 写真、モダニズムを超えて』、青弓社 (978-4-7872-7228-7 2)
2. ヴィレム・フルッサー/ 深川雅文 訳、1999、『写真の哲学のために』、勁草書房 (4-326-15340-7 3)
3. 深川雅文/後藤繁雄/港千尋、2019、『現代写真アート原論 -「コンテンポラリーアートとしての写真」の進化形へ-』、フィルムアート社 (978-4-8459-1815-7 4)

講師: 深川雅文

公式 Website: "Art & Article" <https://www.mfukagawa.com/> ▶ 深川雅文(キュレーター/クリティック)の活動の紹介: 履歴、執筆活動(評論等)、企画活動(展覧会等)

国際美術評論家連盟日本支部(AICA JAPAN)会員 <https://www.aicajapan.com/ja/memberprof/fukagawa-masafumi/>

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

各回の教材は、水曜日午前 9 時に配信。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンラインでの実施に切り替える場合もあります。オンデマンド授業になった場合、リアクションペーパーの課題については、同日、午後 1 時に配信します。

- 第 1 回 9 月 21 日(水)
- 第 2 回 9 月 28 日(水)
- 第 3 回 10 月 5 日(水)
- 第 4 回 10 月 12 日(水)
- 第 5 回 10 月 26 日(水)
- 第 6 回 11 月 9 日(水)
- 第 7 回 11 月 16 日(水)
- 第 8 回 11 月 23 日(水)
- 第 9 回 11 月 30 日(水)
- 第 10 回 12 月 7 日(水)
- 第 11 回 12 月 14 日(水)
- 第 12 回 12 月 21 日(金)
- 第 13 回 1 月 11 日(水)
- 第 14 回 1 月 18 日(水)

履修者への情報伝達手段として「Blackboard」ならびに講師用メールを使用します。

注意事項 (Notice)